



報道関係各位

2017年1月17日

あべのハルカス美術館・ジブリの立体建造物展 開催決定！

日本一高いビル「あべのハルカス」の16階に位置する「あべのハルカス美術館」では、2014年3月の開業以来、東大寺展を皮切りに全15本の展覧会を実施してまいりました。

2017年は「拜啓 ルノワール先生 - 梅原龍三郎が出会った西洋美術」、「マティスとルオー - 友情50年の物語-」、「没後70年 北野恒富展 なにわの美人図鑑」、「創建1250年記念 奈良 西大寺展 叡尊と一門の名宝」、「北斎 - 富士を超えて-」の5本の展覧会を予定しております。

さて、上記5本の展覧会に続く新たな展覧会を企画しましたのでお知らせします。展覧会の詳細は下記のとおりです。また別紙では2017年に開催予定の展覧会を紹介しております。

今後も多種多様な展覧会を気軽に楽しめる、より魅力的な都市型美術館として多くのお客様にお越しただけるよう運営してまいります。

ジブリの立体建造物展

会 期：2017年12月2日（土）～2018年2月5日（月）

共 催：読売テレビ、読売新聞社、キョードー関西

開催趣旨：ジブリ作品に登場する、どこかに存在していそうな架空の建造物。本展では、その印象的な建物に注目し、建築家 藤森照信氏の監修により紹介します。「風の谷のナウシカ」から「思い出のマーニー」まで、背景画や美術ボード、美術設定といった制作資料450点と、代表作の立体模型も展示。物語の舞台である、空想的で現実的な空間へのこだわりに迫ります。



千と千尋の神隠し © 2001 Studio Ghibli・NDDTM



となりのトトロ © 1988 Studio Ghibli

※プレスリリースに添付している画像データは貸出可能ですのでご希望の方はお問合せください。
また、各展ともに開催2～1ヶ月前を目処に詳細なプレスリリースを皆様のもとへお送りします。

～ あべのハルカス美術館・2017年 展覧会ラインアップ ～

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月～
展覧会名	I. 拝啓 ルノワール先生 -梅原龍三郎が会った西洋美術-			II. マティスとルオー -友情50年の物語-		III. 没後70年 北野恒富展 なにわの美人図鑑		IV. 創建1250年記念 奈良 西大寺展 叡尊と一門の名宝		V. 大英博物館 国際共同プロジェクト 北斎 -富士を超えて-		VI. ジブリの 立体建造物展
会期	1月24日(火) ～ 3月26日(日)			4月4日(火) ～ 5月28日(日)		6月6日(火) ～ 7月17日(月・祝)		7月29日(土) ～ 9月24日(日)		10月6日(金) ～ 11月19日(日)		12月2日(土) ～ 2018年2月5日(月)
日数	57日			51日		40日		54日		40日		63日

【詳細】

I. 拝啓 ルノワール先生 -梅原龍三郎が会った西洋美術

会期：2017年1月24日(火)～2017年3月26日(日)

共催：朝日新聞社

開催趣旨：日本の近代洋画界を牽引し一時代を築いた画家 梅原龍三郎(1888-1986)。本展では、フランス近代絵画の巨匠ピエール=オーギュスト・ルノワール(1841-1919)との師弟関係を軸に、その画業を追います。ルノワールのほかるオーやピカソなど、梅原が出会い収集した西洋美術コレクションもまとめてご紹介します。



《読書》梅原龍三郎 1911年 三菱一号館美術館寄託



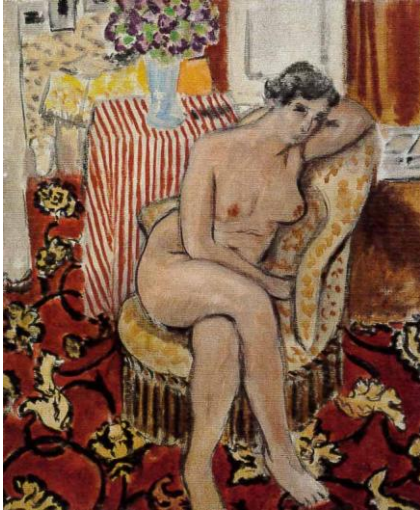
《麦藁帽子の若い娘》ピエール=オーギュスト・ルノワール 1888-1890年 三菱一号館美術館寄託

II. マティスとルオー - 友情50年の物語 -

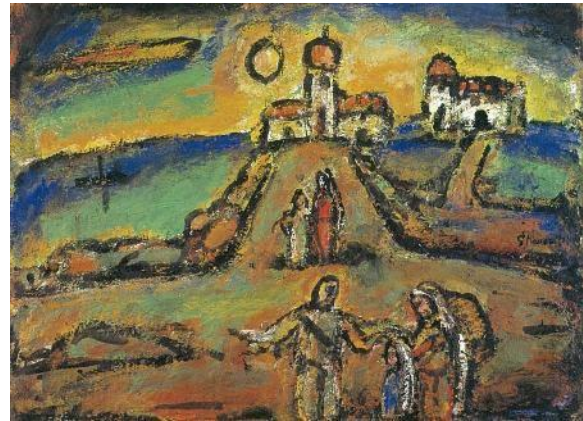
会 期：2017年4月4日(火)～2017年5月28日(日)

共 催：産経新聞社、関西テレビ放送

開催趣旨：フランス近代絵画の巨匠として輝かしい足跡を残したアンリ・マティス(1869-1954)とジョルジュ・ルオー(1871-1958)。パリの美術学校の同級生であったふたりは、生涯にわたって家族ぐるみの交流を続け、互いの創造活動を尊重し、支援し合いました。近年発見された往復書簡とともに、それぞれの個性を浮き彫りにする国内外の名品を通して、半世紀にわたるふたりの厚き友情と芸術の軌跡を紹介します。



《肘掛椅子の裸婦》アンリ・マティス
1920年 DIC/川村記念美術館蔵



《秋の夜景》ジョルジュ・ルオー
1952年 パナソニック汐留ミュージアム蔵

III. 没後70年 北野恒富展 なにわの美人図鑑

会 期：2017年6月6日(火)～2017年7月17日(月・祝)

共 催：産経新聞社、関西テレビ放送

開催趣旨：金沢生まれの北野恒富は、画家を志して17歳で大阪へ来ました。「画壇の悪魔派」と呼ばれた初期の作品は妖艶さが漂っていますが、やがて内面表現を深化させ、ついには「はんなり」の画風に到達したのです。没後70年を記念した、大阪初の大回顧展です。



《茶々殿》北野恒富 昭和14年(1939)
大阪市立美術館蔵



《星(夕空)》北野恒富 昭和14年(1939)
大阪市立美術館蔵

IV. 創建1250年記念 奈良 西大寺展 叡尊と一門の名宝

会 期:2017年7月29日(土)~2017年9月24日(日)

共 催:真言律宗、総本山西大寺、日本経済新聞社、テレビ大阪、BSジャパン

開催趣旨:本展では西大寺および真言律宗の各寺院に伝わる国宝・重要文化財をはじめ超一級の彫刻・絵画・工芸品など優れた仏教美術を紹介しながら、時代のうねりの中で仏教の進むべき針路を追い求めてきた興正菩薩叡尊ら西大寺一門の僧侶や同寺にかかわった人々の足跡をたどります。



重要文化財《塔本四仏坐像(釈迦如来)》
奈良・西大寺蔵
画像提供:奈良国立博物館(撮影:森村欣司)

重要文化財《愛染明王坐像》
奈良・西大寺蔵
画像提供:奈良国立博物館(撮影:森村欣司)

国宝《興正菩薩坐像》
奈良・西大寺蔵
画像提供:奈良国立博物館(撮影:森村欣司)

重要文化財《吉祥天立像》
京都・浄瑠璃寺蔵
画像提供:奈良国立博物館
(撮影:佐々木香輔)

V. 北斎 一富士を越えて一

会 期:2017年10月6日(金)~2017年11月19日(日)

共 催:NHK大阪放送局、NHKプラネット近畿、朝日新聞社

開催趣旨:葛飾北斎は、浮世絵師でありながら、その枠を超えた絵画界の巨人です。90年の生涯のうち、常に新しいことに挑戦し続け、あらゆる分野で一流を確立した絵師として、今もなお世界的な名声を勝ちえています。北斎の作品の抜きんできた個性、エネルギー、そして高尚さを示すこと、特に晩年の北斎が希求し、絵師として神の世界に至るべく努力した足跡を、見る人に届けることが本展覧会の目的です。



《富嶽三十六景 凱風快晴》横大判錦絵 大英博物館蔵



《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》横大判錦絵 大英博物館蔵



《雪中張飛図》
絹本一幅 氏家浮世絵コレクション蔵

【アクセス】

【開館時間】

火～金：10:00 - 20:00
月土日祝：10:00 - 18:00
*入館は閉館30分前まで
*ジブリの立体建造物展のみ、全日10:00 - 20:00

【休館日】

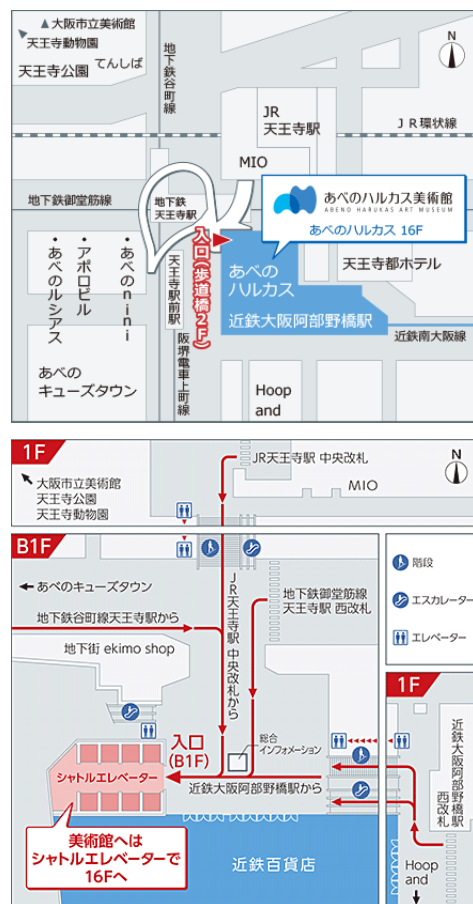
一部の月曜日
年始、展示替え期間(不定期)
*展覧会により休館日は異なります。

【所在地】

〒545-6016
大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 あべのハルカス16階

【最寄駅】

近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅 直上
JR各線「天王寺」駅
地下鉄御堂筋線「天王寺」駅
地下鉄谷町線「天王寺」駅
阪堺上町線「天王寺駅前」駅 よりすぐ



【本件に関するお問合せ先】

近鉄不動産株式会社アセット事業本部ハルカス運営部
TEL:06-4399-9050 FAX:06-6622-8091 E-mail:aham@kintetsu-re.co.jp